



●北畠先生の思い出

十八歳の時、文化学院大学で受けた北畠教授の色彩学の講義は、今も鮮明に心に残っています。

型にはまらない授業運びと色彩への深い洞察に強く惹かれ、修士論文はこの先生のもとで学びたいと迷わず決めました。

二年間、自動配色をテーマに絵画分析や配色調和の実験に取り組み、色彩の奥深さと学ぶ楽しさを教えていただきました。

イトキン入社後、社員研修で色彩教育を担当した際には、北畠先生からお借りしたA3パネルを用い、「色を教えることは楽しくなければならぬ」というお言葉を胸に指導を行いました。

長い年月を経て、2017年に中国の芸術大学で、再びご一緒できたことは忘れがたい思い出です。

表色系を軸に語られる先生の姿は変わらず力強いものでした。

その志半ばでの突然の訃報は痛恨の極みですが、北畠メゾットを受け継ぎ、今後も教材研究を通してその精神を伝えていきたいと考えています。

先生のご冥福を祈ります。

(幹事：田村恭子)

●江戸東京たてもの園の外装色調査

小金井市桜町の「都立東京たてもの園」は、江戸時代から昭和初期にかけての約30棟の建物の他に、屋外展示物を加えた、周遊型の展示場です。

私は若い頃に、何度か足を運んで、撮影をしたり、色彩測定をした経験があります。

私が行った建物の外装色のまとめ方を紹介致しますと、全体の撮影と、一つの建物について、屋根色から2色、外壁色から5色、補助色を2色、強調色を1色の合計10色を読み取って、持ち帰って色票化します。

色票は、マンセル値を当てはめる他に、CMYK値を推定して、プリンタで出力できるようにしていくと、教材や資料として使用したり、保管する際に便利です。

展示されているのは、三井八郎右衛門邸、奄美の高倉、江戸時代の農家、高橋是清邸、伊達家の門、明治時代の醤油店、居酒屋、銭湯、仕立屋、和傘屋、旅館、万世橋交番他、合計30棟と多彩です。

春の天気の良い日に、親しい友人と誘い合わせて、色票とメモ帳持参の散歩を試みてみてはいかがでしょうか？本格的な実測調査は事前の許可が必要です。

(永田泰弘)

●大辞泉ひろいよみ 111ーし

姿色：ししよく。みめかたち。

紫色：ししよく。むさきいろ。

紫色金：ししよくきん。金78%とアルミニウム22%でできた合金。装飾用。

白色：じしよく。ある鉱物に固有の色。不純物で着色されていない色。

地白：じしろ。織物の地の白いこと。また、白地の織物。白地。地白地。「地白染め」の略。

地白染め：じしろぞめ。模様以外の地色を白く残して染め出すこと。また、そのように染めたもの。

紫宸：ししん。「紫」は天帝の座である紫微星、「宸」は天子の居所の意。天子の御殿。禁中。

紫宸殿：平安京内裏の正殿。即位・朝賀・節会などの諸種の儀式や公事を行った。入母屋造りで、南面し、中央の階の左右に左近の桜、右近の橘がある。殿内中央に高御座と御帳台があり、その後方に賢聖障子が立つ。

視診：ししん。医者が患者の顔色や患部を目で見て診察すること。必要に応じて内視鏡を使用する。

視神経：ししんけい。網膜の視細胞からの刺激を脳に伝え、視覚を司る神経。第二脳神経。視束。

*大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)